

二〇一九年度(平成31年度)

横浜女学院中学校

D 入学試験問題

平成31年2月2日(午後)

国語

注意

- 1 監督の指示があるまで開けないでください。
- 2 問題は、18ページあります。
- 3 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 4 時間は50分です。

受験番号	氏名
------	----

— 次の——線①④のカタカナを漢字に、漢字をひらがなにしなさい。また、文章中の漢字の間違まちがいを1か所ぬき出し、正しい漢字に直しなさい。

人口ゲンシヨウ①の原因について考察した。タガヤす②のに適した土地が地方には多く残っているにも関わらず、有効利用されていないことが原因の一つである。この問題点については厳しく検討③しなければならぬ。原状を放置してしまいうな風潮④があるのは残念なことだ。

二 一次の文章を読んであとの問いに答えなさい。(字数制限のある問いは、句読点や記号も1字に数えます。)

約一万年前に氷河期が終わり、地球が温暖化していくなかで、人はやがて農業を始めるようになります。そして、これらの野生の哺乳動物を家畜化していきます。時代はずっと下がって、紀元前八七〇〇〜八五〇〇年です。ここに、野生の動物を狩猟し、その肉を食べる生活から、家畜を飼って肉を得るとい生活に変化したわけです。人類の誕生が七〇〇万年前、家畜化が約一万年前ですから、人類の歴史からみると、ほんのつい最近のことです。

野生の哺乳動物は地球上に現在、約四三〇〇種から約四六〇〇種いるといわれています。このうち、家畜となったのは約二〇種程度にすぎません。ウサギ、ネズミ、オオカミ(イヌ)、ネコ、ウマ、イノシシ(ブタ)、ラクダ、トナカイ、ウシ、ヒツジ、ヤギなどです。多くは、乾燥地に適した動物たちです。これらの家畜化された動物たちのうちで、ウマ科(ウマ)、ラクダ科(ラクダ、リヤマ、アルパカ)、ウシ科(ウシ、ヤギ、ヒツジ、スイギュウ)の動物たちには、たくさん個体が集まって群れをなすという共通の性質が備わっています。これらの動物に群れをなす性質があったからこそ、多数頭で飼うことができ、まとまった食料が期待できたのです。そして、どちらかという気性がおとなしい性質、もしくは、飼い慣らせばおとなしくなるような性質が、家畜には認められます。人は、このような動物の特質を巧みに利用することで、よりよき牧野に家畜を導くことができました。また、搾乳や休息のために家畜をコントロールし、まとまった食料を得ることもできたのです。

ただ、イヌは群れをなしません。イヌの祖先はオオカミであり、極めて危険な動物です。人は、オオカミを食料生産の

ためではなく、その獐猛性どらもうを利用したのです。ユーラシア大陸からアフリカ大陸にかけて、牧畜民ぼくちくみんのテントを訪ねると、きま^③ってイヌに激しく吠えほまくられてしまいます。人や家畜に危害を加えるような他者を遠のけるために、イヌを家畜として飼かい、その獐猛性を利用しているのです。

A 北アジアではウマが騎乗きじよう用※3に、西アジアからアフリカにかけては口※4バが運搬や騎乗用に主に用いられています。ウマ科の動物は脚力が発達していますから、移動速度も速く、家畜化していくのには相当な困難ともなが伴ったことでしょう。

B 人は逆にこの脚力を生活に利用したのです。人との関係を良好に築けた野生動物だけが、家畜として人の社会に入っていたのです。

野生動物を家畜化すると、人は長年の時をかけて都合のよいように改良していきます。身体のサイズは、管理し易いように、たいていは小型化します。家畜が大きいままだと、暴れた際など、人の生命さえも危ぶまれるからです。毛色は、人の好みによって突然変異種が選ばれ、野生種には見られないような多様な色調と模様が現れるようになります。野生種のオオカミと家畜種のイヌを比べると、その多様さの違ちがいが明らかです。角は一般的には小さくなり、蹄ひづめも退化していきます。一方、食料生産に有利なように動物を改良してきた経緯けいゐ上、より多くの子どもこちく（子畜）を産むようになり、体重の増加率は向上し、泌乳量びつじょうりょうも増えます。本来、野生動物の母親は自分が産んだ子どもを育てる程度にしかミルクを出しません。が、家畜種の母親ぼちく（母畜）となると、例えばホルスタイン牛では五〇kg／日と泌乳量が驚異的に増加します。家畜は人の管理下にあるだけに、野生動物と比べると、よりひ弱で従順になります。が、食料生産性の面では優れているのです。

ウマやロバは蹄が一つのみであるため奇蹄目きていもくに、ウシ、トナカイ、ラクダ、ヒツジやヤギ、そして、ブタは蹄が半分

割れて二本または四本あるため偶蹄目ぐうていもくの動物に分類されています。この偶蹄目の家畜のうち、ブタとラクダを除く家畜は胃を四つも持ち、反芻動物はんすうと呼ばれています。ウシやヒツジが、胃を四つも持っていることを知っていたでしょうか。それぞれの胃は機能が異なり、役割分担やくわりたんたんされています。

④反芻はんすうとは、胃の内容物を少量ずつ吐き戻はして再咀嚼さいそしゃくする生理現象せいりげんしょうをいいます。ウシやヒツジが草原くさげんに寝そべり、口をモグモグさせているのが、それです。反芻動物は、主に第一胃の中に細菌類さいきんるいや原虫類げんちゅうるいを生息せいそくさせているため、胃が一つしかない動物たんいどうぶつ（単胃動物）では消化しょうかしにくい植物繊維しょくもつせんい（セルロース）などをも消化し、栄養素を吸収きゅうしゆすることができます。だからこそ、草だけを食べていても、ウシのような大きな身体を維持いじでき、大量のミルクも生産せいさんすることができます。乾燥地などで家畜が、栄養価の低い植物しょくぶつだけに依存いぞんして生きていける理由りゆうがここにあるのです。

やがて、人は家畜からミルクを搾しぼるようになります。今からおおよそ八〇〇〇年から九〇〇〇年前のことです。動物のミルクを搾しぼって利用しているのは、哺乳類約四三〇〇〜四六〇〇種類の中で人のみです。もともと、母は自らの子のみを育てるために大量の血液けつえきを使い、ミルクを生産せいさんしているのです。それを横取りよこどりして利用するなんて、とても珍めづらしく巧たくみな技術ぎじゆつを人は発明はつめいしたことになります。

西アジアや北アジアなど赤道付近はなから離れた場所では、いずれの反芻家畜も基本的に一年に一度、子を一〜二頭しか産みません。子を産み、家畜個体を増やしていくには極めて非効率ひてうりつです。単に肉を得るだけならば、苦勞くろうして家畜を飼かひい育てるよりも、野生動物を **C** するほうが効率的てうりつてきであったことでしょう。家畜化かちくわがおこなわれ始めた新石器時代しんせきじだい、家畜が

食べられていたのは当初はわずかであったことが、出土した動物の骨の分析により明らかにされています。現在の事例でも、カラハリ砂漠で狩猟採集生活を営むサン族では、生きていくために必要な食料を調達するための平均労働時間は、成年男子で一日わずか約二時間であると報告されています。また、家畜を飼うということは、飼料を一年を通して確保しなければなりません。春から夏にかけては、家畜を草地で放牧させていればいいのですが、草資源が乏しくなる秋から冬にかけては、飼料を確保・保存しておいて、家畜に与えることが必要となつてきます。つまり、肉を食べることが目的ならば、わざわざ労力を費やしてまで家畜を飼う必要はなく、野生動物を狩猟すれば多くの必要が満たされていた可能性が高いのです。

⑤ それでもなぜ、人は効率的ではない反芻動物を飼おうとしたのでしょうか。ここで、ミルクの登場です。ミルクを利用するという生業は、家畜を殺さず、生かしたまま食料を利用するという活動、つまり、家畜という元本は残しておき、ミルクという利子^{※11}によって生き抜いていくという生存戦略です。搾乳によって、初めて家畜から食料を定期的に得ることが可能となりました。また、肉利用から乳利用に転換^{てんかん}することで、餌^{えさ}（植物）から食料を生み出す効率は三・七倍と飛躍^{ひやくてき}的に向上することになります。ミルクを利用するという視点は、肉利用とは家畜の利用法が全く異なつた戦略なのです。

実際、フィールドワークでアラブ系などの牧畜民と生活を共にしていると、牧畜民が肉を食べるのは祝い事やお客さんを迎^{むか}えたときぐらいで、日常ではほとんど食べていません。ケニアのトゥルカナ牧畜民やマサイ牧畜民の事例では、食料の約六〇%もをミルクに依存しています。日常の食料の半分以上がミルクなのですから、驚^{おどろ}きです。これらの事例は、ミルクに多くを依存して生活が成り立っていることを実際に示しています。多くの牧畜民は、肉を食うというよりもミルク

を食って生き抜いているのです。牧畜民は、より多くのミルクを獲得しよう^{かくとく}と家畜を飼っていると云っても過言ではないのです。人が家畜を飼いだめたからこそ発明できたのが、ミルクの利用だったのです。人が生きるために、家畜を生かし留め^{とど}、そのミルクを利用する。ここに、新しい食料獲得方法が誕生したのです。

(平田昌弘『人とミルクの1万年』より)

- ※1 紀元前…イエス・キリストが誕生したとされる西暦元年より前の時代
- ※2 搾乳…家畜の乳をしぼること
- ※3 騎乗…馬などに乗ること
- ※4 運搬…物品などを運ぶこと
- ※5 泌乳量…乳を出す量
- ※6 咀嚼…食物をよくかみくだくこと
- ※7 生理現象…生命を営むうえで体に起こる現象のこと
- ※8 原虫類…単細胞^{たんさいぼう}の微生物類^{びせいぶつ}
- ※9 飼料…家畜などに与える食物
- ※10 元本…収益をうみだす元となる財産
- ※11 利子…金銭を一定期間貸したことによって得られる利益のこと

問一 —— 線①「時代はずっと下がって」(2行目)とありますが、「下がって」と同じ意味の「下(る)」を次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア つらがたれ下がる。

イ 能率が下がる。

ウ 白線の内側に下がる。

エ 昼下がりに散歩する。

オ 姉からのお下がりを着る。

問二 —— 線②「このような動物の特質」(11行目)の説明として適当ではないものを次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 集団で生活するという性質

イ おとなしくなりやすいという性質

ウ 乾燥地にも適応できるという性質

エ 小型で管理しやすいという性質

オ 性格がおだやかだという性質

問三 ——— 線③ 「その獯^{どうもうせい}猛性を利用したのです」(15行目)とありますが、どのような目的で利用したのですか。「く目的」につながるように20字程度で本文からぬき出し、始めと終わりの5字を書きなさい。

問四 [A] (17行目)、 [B] (19行目)にあてはまる語句の組み合わせとして適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| ア | A | また | B | しかし |
| イ | A | だから | B | また |
| ウ | A | しかし | B | なぜなら |
| エ | A | なぜなら | B | だから |
| オ | A | だから | B | しかし |

問五 ——— 線④ 「反芻」(33行目)が優れている点を本文から21字でぬき出し、始めと終わりの5字を書きなさい。

問六 [C] (44行目)にあてはまる漢字2字の語句を本文からぬき出して答えなさい。

問七 ———線⑤「それでもなぜ、人は効率的ではない反芻動物を飼おうとしたのでしょうか」(52行目)とありますが、こ

の部分について次の問いに答えなさい。

- (1) なぜ「効率的ではない」のですか。本文の言葉を使って45字以内で答えなさい。
- (2) この部分に対する答えを本文の言葉を使って30字以内で書きなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問いは、句読点や記号も1字に数えます。)

兄は、おだやかな性質であったけれど、だれに対しても、正直に思ったことを話しました。ことに友人に対しては、すこしもかくしだてすることはなかったのです。兄は、会社で、上のものが権力によって、下のものをおさえつけようとするのを見て、なにより不愉快ふゆかいに思ったらしいのでした。

「課長は、いつも、こわばった顔をしているが、家へかえって、細君さいくんや、子どもたちにも、あんな目つきで、ものをいうのだろうか。」と、さもまじめに、考えていたこともあります。

また同僚どうりょうが、むやみと上役うわやくに対して、機嫌きげんをうかがうのを軽蔑けいべつしながら、

「公用と私用を一つにするばかもないものだ。自分①からこのんで、奴隷どれいになろうとしている。」と、歎息たんそくしていたこともありました。

よく重役が、買い出しや、家事の雑役ざつえきなどに、社員を使用することがありますが、兄は、けっしていかなかったばかりでなく、そんなひまがあるときは、映画を見たり、レコードをきいたりしたものでした。

あるとき、ぼくが、

「にいはさんは、いつも音楽をきいたあとで、どんな空想②をなさいますか。」と、きいたことがある。ふだんから、美と平和を愛する兄であるのを知っていたけれど、こうした場合に、希望や、空想が、どんな形であらわされるだろうかと思ったからです。

兄は、遠くを見るような目つきをして、

「そうだな、いい音楽をきいたときだね。」といって、考えました。

「美しい、絵のようなけしきが、目に浮かんでくるよ。」

「どんなけしき？ 現実でなく、架空な、未来の世界とでもいうのですか。」

「いや、そんな空虚な夢ではない。たとえば、赤い夕空の下に、工場の煙突がたくさんたっている、近代的な街の風景とか、だいたい色の太陽が燃える丘に、光線の波うつ果樹園とか、さもなければ、はてしない紺碧の海をいく、日章旗のひるがえる商船とか、そんなような、清らかで、朗らかなうちにもさびしい、けしきが目に浮かぶのだよ。」と兄は、いったのでした。ぼくは、

「にいさん、そうした美しさなら、いくらもあるけしきじゃありませんか。」と、いったのです。

兄は、じつとぼくを見て、

「ただわたしがそういっただけでは、わからないだろう。なるほど外観からいえば、この種の街や、工場や、農園は、絵として見ても、手近なものであるにちがいない。問題は、その町や、村で働いている人たちのことだ。わたしが、これまでであった、あのような、謙虚で、正直で、しんせつな人々が働いているということではなければならぬ。かりにそうしたどうしの集まりだと想像してごらん。日々そこでいとなまれる生活こそ、どんなにか、楽しかろうじゃないか。そこには、暴力や、権力をもつ人間もなく、すべてが理解と同情とで、協力しあうのだからね。」といました。

そうきくと、たとえ、経験のとほしいぼくでも、そして、また深いことはわからぬけれど、そうした社会が平和で、真

に住みよいところであるということだけは、さとれるのでした。

兄がいなくなつてから、家の中は、急にさびしくなりました。そして、はやいく日か、たったころ、母はひとりごとのように、

「ゆうべ、あの子が特攻隊へはいつた夢をみたが。」^{※3}といつて、ふさいでおられました。

だから、ぼくは、

④「にいさんにかぎつて、特攻隊などへ、入りませんよ。」と、うち消して、無理にも母を元気づけようと思いました。しかし、母は、いつまでも気にかかるとみえて、それから後も、家の中は、なんとなく、うすぐらいような日がつづきました。

ところが、まったく突然でした。それが、おどろきでもあり、喜びでもあったのは、^⑤兄が帰つてきたことです。

ある日、だれか玄関へきたようなけはいがしたので、姉が出てみると、立っていたのが兵隊すがたの兄だったので、姉は、びっくりして、

「まあ、義ちゃんなの？ お母さん、義ちゃんが帰つてきましたよ……。」と、さげんだ。その声をきいて、母も、ぼくも、ころげるようにとびだしました。^⑥兄は、泣いているのです。

「さあ、早くお上がり、どうしたの。」といつて、母も泣きました。

「にいさん、なにか変わったことがあったの？」

ぼくは、いままで兄の泣いたのを見たことがなかったのと、もし出征すれば、おそらくふたたび見られないだろうと思つ^{※4}た

ていたので、ついこうききました。姉も、

「義ちゃん、どうかしたの？」といって、兄の顔をのぞくようにしました。

兄は、あとから、あとから、目にあふれ出る涙を、手の甲こぶしでふきながら、頭を左右にふって、

「みんなの顔が見られて、うれしいのだ。」と、わずかに答えたのです。

「こっちへ、あがってから、ゆっくりお話しなさい。」と、母は、手を引かんばかりにして、兄がくつのひもとくのも、もどかしげに見守っていました。

「にいさん、もういなくてもいいの。」

「いまなん時だね。晩方までに、こちらを出て、隊へかえらなければならない。」

兄は、あいさつが終わると、これまで、自分が勉強をしたり、レコードをかけたしたり、へやへいききました。家のものは、その後も、兄がいるときと同じように、そうじはするけれど、だれも、手をつけようとしなかったので、本箱のなかも、たなのかざりも、兄が出ていったときのままとなっていて、すこしも変わっていなかったのです。

兄は、さもなつかしそうに、あたりを、見まわしていました。それから、いつもそうしたように、好きなレコードをかけました。

外国物では、アベ \parallel マリアとか、粗朴そぼくながら、血のつながりに、哀愁あいしゅうをもよおす日本の民謡みんようなどを兄は、このみました。

「義ちゃんが、ずっとこうして、家にいてくれたらいいのね。」と、姉はそばに立ち、鼻をつまらせていました。

「じきにかえってきますよ。そうしたら、もうどこへもいきません。」と、兄は、答えました。

「お母さんが、心配していらつしやるから、きつと無事に帰ってね。」

晩方近く、小雨の降るなかを、兄は、隊へとかえりました。みんなが、門口まで見送りに出ると、ふりかえって拳手の礼を残して去りました。

「あんまり思いがけなかったので幽霊ゆうれいかと思ったわ。」と、姉はへやへもどると、母に話していました。

「公用のついでとかいいますが、よく寄ってくれましたね。」と、母は、目をしばたいていました。

しかし、それきり^⑦、兄は家へ帰らなかったのです。やはり特攻隊に入っていたのでした。あとで、このことも知ったのですが、兄はあるとき、いとまごいのつもりできて、わたしたちに気づかれぬように、アルバムから、父と母の写真をはいで持っていきました。

戦争中、特攻隊が、よく出発前、別れのことばを放送して故国にのこしたことがあります。地域の関係からか、兄はこれに加わらなかったのです。□、ぼくは、現在でも、道があるいてるときとか、またぼんやり空想にふけているときとか、そんなようなときに、どこからともなく、兄の声をきくことがあります。

ことにさんらんとして夕焼けのする晩方などに、あざやかといってもいいくらい、はっきりと、なつかしい兄の声をきくことがあります。

「おまえは、真に自由と、正義と、平和のために、生命のかぎりをつくせ！」と。

それは、短い生涯しょうがいであったけれど、美と平和をこのうえなく愛した兄として、こういって、ぼくをばげましてくれるのは、まことに、当然のことと思われるのであります。

(小川未明『兄の声』より)

- ※1 細君…妻つまのこと
- ※2 日章旗…日の丸の旗のこと
- ※3 特攻隊…主に太平洋戦争中に敵軍に飛行機ごとぶつかって攻撃する隊
- ※4 出征…兵隊員として戦地に行くこと

問一 —— 線①「自分からこのんで、奴隷になろうとしている」(7行目)とありますが、これはどのようなことについて言っているのですか。20字以内で書きなさい。

問二 —— 線②「どんな空想をなさいますか」(12行目)とありますが、兄の空想と関係のない言葉を次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 希望 イ 平和 ウ 正義 エ 勝利 オ 美

問三 —— 線③「すべてが理解と同情とで、協力しあう」(29行目)とありますが、これと反対の人間の行動が書かれたところを、これより前から30字以内でぬき出し、始めと終わりの5字を答えなさい。

問四 —— 線④「母は、いつまでも気にかかる」(37行目)とありますが、どのようなことを気にかけているのですか。20～30字で書きなさい。

問五 —— 線⑤ 「兄が帰ってきたことです」(38行目)とありますが、「兄が帰ってきた」ときの説明として適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 姉は、兄が本当に泣いているのかどうかを疑って、兄の顔をのぞいた。

イ 兄は、もとのままであった自分の部屋で、レコードをかけた。

ウ 母は、兄と話したいあまりに、兄がくつを脱ぐ前に家に引き入れてしまった。

エ 兄は、母に話しかけられて、泣き出してしまった。

オ ぼくが、兄が帰ってきたとさげぶと、母と姉が大急ぎで玄関にあらわれた。

問六 —— 線⑥ 「兄は、泣いているのです」(42行目)とありますが、兄はなぜ泣いていたのだと考えられますか。本文全体の内容をふまえて30字以内で書きなさい。

問七 —— 線⑦ 「それきり」(67行目)の使い方として適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア それきりにうまくできれば十分だ。

イ 彼女かもしれないが、それきり背が低い。

ウ 彼女の意向をそれきり聞いてみる。

エ それきり彼女からはたよりが無い。

オ 彼女の意見はそれきりにおもしろい。

問八



(71行目) にあてはまる語として適当なものを次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア しかしながら

イ そのうえ

ウ それにしても

エ なぜなら

オ つまり

問九

あなたのこれまでの人生で、あなたの考えに大きな影響えいきょうを与えた人物と、その影響について100字以内で書きなさい。

人物については、実在した人物・実在する人物であれば、歴史上の人物であっても、あなたが直接会って話したことの

ある人物でもよい。